

第137回 東葛しぜん観察会

初夏の自然たんけん

藤田 隆（松戸市）

日 時：2017年6月4日（日）10時～15時 天気：晴

場 所：21世紀の森と広場（松戸市）

参加者：147名（大人67名 子ども80名）指導員 20名 友の会他10名、パーク4名
担当指導員：渋谷・高橋・藤田

初夏の自然たんけんラリーは21世紀の森と広場友の会会員向けのボランティア体験入門講座と千葉県自然観察指導員協議会のSSN（小学校自然観察支援ネットワーク）の松戸の事例勉強会の相互乗り入れ企画として行われました。午前中は座学と自然たんけんラリーポイントの下見、午後が本番という組み立てでした。

当日朝から真っ青な空が広がり、気温は高いわりに、そよそよと風が吹く絶好の自然観察日和となりました。午後1時から「初夏の自然たんけんラリー」がスタートし、当日受付で何人来るか心配でした。開けてみれば147人の参加と、地域メディアに広報した成果に驚くばかりでした。

自然たんけんラリーはクイズあり、体験ありの11ポイント【1) シロツメクサで作ろう（指輪つくり）、2) オオバコ相撲、3) クワの実たんけん、4) においたんけん（ヨモギorドクダミ）、5) クイズ オトシブミ（揺籃の主探し）、6) 鳥のこえを聞こう、7) 虫をさがそう、8) クイズ これはなに？（田んぼのはさかけ）、9) クイズ ハス（葉の展開方法）、10) クイズ ポピー（つぼみ、花、実）、11) クイズ アゼナルコ（茎の断面の形）】を巡り、初夏の自然に触れてみようというもの。

オオバコ相撲は小さな子どもに人気で、いつまでも引っぱりっこが続き、年上の子は虫めがねを使って花の様子を興味深そうに観察していました。シロツメクサも同様に指輪づくりに懸命になる子どもと花の観察に余念のない子どもという具合に、年齢に応じた学習・観察ができる、この季節の教材としてぴったりのものが揃った感がしました。

「虫をさがそう」は友の会の2名と私が担当し、公園から自然たんけんラリーに限って補虫網の使用許可をいただき、持ち帰らないことを受付時に約束しました。モンシロチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、キタキチョウ、ヒシバッタ、ショウウリョウバッタ、ヤブキリ、イナゴ、カノコガ、ツノカメムシなどが子どもたちの網に收まりました。一つのポイントは5分程度となっていましたが、捕まるまで追いかける、もっと捕まえたい、とヒートアップ、30本用意した虫捕り網が在庫ゼロになることもありました。ポイントを回ることも、虫を捕まえる満足感も大事、何を優先させるのか、「いきものさがし」の課題がえた一コマでした。

子どもたちの自然体験が少なくなる傾向の中で、手づかみのモンシロチョウを目の前に、目の色は「黄色のような、緑のような…」、ストローのような口は「どっち巻き」と、虫めがねを通してじっと眺める子どもたちの姿に、季節を変えて続けていきたい企画だと改めて感じました。



網をつかって 虫さがし